

はしがき

私達は、しのびよる病に対してどのようにしたらよいのでしょうか。100才以上の超高齢者で見受けられる健康長寿とは、極々限られた例外とでも言うべきものでしょうか。さて、抗老化に関わる様々な研究がなされ報告されてきておりますが、現時点では、究極のところ、日々の心掛けが重要ということでしょうか。

ならば、何に心掛けるかです。実は、万物の根源から自然の摂理を追い求めようとする科学からの答えは、至極簡単です。生命現象の源たる遺伝子とその遺伝子の世界を包み込む水の世界に着目すればよいのです。結局、SOS応答と称する生命科学の哲理から、ヒト血液に注目し、得られた結論です。

ストレスに暴露されたヒト体内では、血液中で運命を定める因子が活性化され、細胞中でも作用し、遺伝子暗号の保持や細胞自身の生死を左右しているようなのです。

そこで、現在の問題、環境ストレスの一つ、福島第一原発事故に伴う放射線に対して、私達はどのように対処すべきでしょうか。2011年3月15日、ここ千葉においても、私達はインフォームドコンセントなき被曝をしました。

I131に関する飛散の推測と類似した環境放射線量に関して野外の資料採取による測定結果を得ています。そこで、それらの経験をもとに、2011年11月発行の「被災・被曝ストレス編 水から学ぶ健康の泉」に引き続き、対放射線防御策のヒントを得ようと綴ったものです。健康長寿という大きな命題に向かって、株式会社ウェッジ社の支援のもと、発刊することとしました。幸運なことに、ライフセラミクスと称するゼオライト製品には、生理・生化学的に様々な効果があるとの示唆を得ました。様々な生活習慣病に対抗する支援物質となる可能性を秘めているとの感触です。では、ライフセラミクスの魅力を十分に堪能して下さい。

平成 25 年 1 月 17 日 鈴木信夫